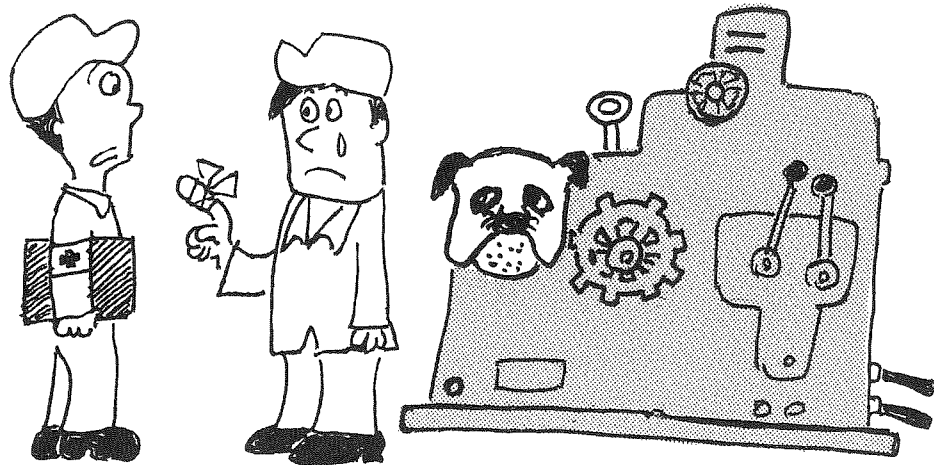


# 飼い犬に手を噛まれる

## 使い慣れた機械や工具に注意



「飼い犬に手を噛まれる」とは、ふだん目をかけて世話をしやり、そのことに恩を感じているだろうと思っていた者から裏切られたり、害を与えられたりするもののたとえです。

人間と犬の付き合いは約一万五千年前からともいわれ、人間にとつて、もつとも忠実な動物といわれています。犬は「三日飼えば三年恩を忘れない」ともいわれます。

それが、自分が可愛がっている犬に手を噛まれたとすると「可愛さ余って憎さ百倍」となつて、「恩を仇で返された」とカンカンになるものです。

しかし冷静に考えてみると、犬は本来人間に忠実な動物ですから、飼い主がよほど悪くなければ、噛みついたりはいはしないはずです。

犬に当たるのは「犬当違い」というものでしょう。

私たちが職場でいつも取り扱っている機械や工具などは、飼い犬以上に忠実なものです。手や足を噛まれたりしてケガをするのは、自分の取扱い方や管理の仕方が悪いからでしょう。

機械や工具などは、きちんと手入れや整備をして、人に危害を与えないよう飼いならしましう。